



埼玉医科大学 (一般後期)

化学



1

1	①⑦	2	②⑤⑥	3	①③④	4	②	5	⑤	6	①
7	④	8	⑨	9	④	10	⑥	11	③	12	⑧
13	⑤	14	②	15	①	16	⑨	17	②③	18	②

2

19	②	20	④	21	③	22	⑦	23	⑧	24	③
25	③										

3

26	②④⑤	27	①	28	①	29	④	30	⑧	31	⑥
32	⑥	33	⑨	34	⑦	35	②	35	②	36	⑥
37	②	38	⑤								

講評 例年通り、大問が3題の出題でした。問題量、出題傾向は例年通りでした。

大問1は、理論と無機分野の小・中間4題。酸化物について(問1)、ケイ素の単体と化合物について(問2)は基礎レベル。問3では、アンモニアソーダ法から、炭酸ナトリウムと炭酸水素ナトリウムの混合水溶液の(変則的な)二段階滴定を考察する問題が出題されました。用いた塩酸の体積比から解答となる比の値を求めることができると早いです。

大問2は、中和滴定における溶液の電気伝導度に関する問題でした。あまり出題されないテーマであるので、初見の受験生も多かったと思います。説明文を読み、その場で理解する力が試されます。問4の(2)からの問題はやるべき作業が多いので、いったん飛ばしてもよいと思いました。

大問3は、糖類に関する問題でした。二糖の還元性の有無を問う問題(問1)は基本レベルです。問2では、単糖のフィッシャー投影式が問われました。事前に学んだことのない受験生の方は説明文をしっかりと読んで理解する必要がありました。フィッシャー投影式を理解している方は、難なく解答できたかと思います。アミロペクチンおよびグリコーゲンの枝分かれの頻度を求める問題(問3)は、(入試問題では)よく見かける問題です。

全体を通してみると、(事前に学習していれば別ですが)問題文をよく読まなければならない問題の割合が例年(もしくは前期試験)よりも多かったと思います。その分、受験生の方にとっては難しく感じられたかなと思います。解ける問題から解き、煩雑な問題(大問2の問4(2)、(3)、大問3の最後の問題など)は後回しにするなどして、制限時間内で自分がとれる最も高い得点をとってほしいと思います。



メルマガ登録(無料)またはLINE公式アカウント友だち登録(無料)で全教科閲覧できます!
メルマガ登録は左のQRコードから、LINE友達登録は右のQRコードから行えます。



渋谷校 0120-142-760 受付9時~22時(日曜日のみ19時まで) 東京都渋谷区桜丘町6-2	名古屋校 0120-148-959 受付9時~22時(日曜日のみ19時まで) 名古屋市中村区名駅2-41-20 CK18名駅前ビル2F・6F	大阪校 0120-142-767 受付9時~22時(日曜日のみ19時まで) 大阪府吹田市広芝町4-34 江坂第1ビル3F
--	---	---

